

# 天遊 Ten You

大阪教育大学広報誌

OSAKA KYOIKU UNIVERSITY  
PUBLIC INFORMATION MAGAZINE

2021 特別号



Athlete's View

TOPICS

附属学校園ウォッチ

特集 1 学長対談「先端技術を活用した新たな学びの実現」

特集 2 大学院教育学研究科の改組について

特集 3 コロナ禍における課外活動について



YouTube OKUChannel

インタビューやイベントの様子など動画を随時更新中!  
チャンネル登録してね!



国立大学法人  
大阪教育大学

# SPECIAL TALK

Sumio Kuribayashi



Toru Kawase

「先端技術を活用した新たな学び」の実現が求められる中、GIGAスクール構想の前倒しにより児童生徒一人一台端末の整備が2021年度から実現することとなりました。今後、指導者用デジタル教科書とともに学習者用デジタル教科書を広く活用することが予想される中、教員養成段階でICTを活用した授業を実践することが求められるなど、教員のICT活用指導力を向上させることが重要となっています。児童生徒一人一台端末が整備された後、「どのような学びが実現するのか、また、教員養成の在り方はどう変わるのか」、大阪教育大学の栗林学長と東京書籍株式会社の川瀬顧問が対談しました。

※本対談は2020年12月15日、柏原キャンパス 附属図書館「東京書籍 Edu Studio」において執り行われました。なお、対談はパーテーションを隔てて行い、写真撮影時のみ一時的にパーテーションを取り払っております。

## 学長対談

# 先端技術を活用した 新たな学びの実現

「GIGAスクール構想のその先へ」



くらばやし すみお  
大阪教育大学長 栗林 澄夫

富山大学文理学部卒、大阪大学大学院文学研究科修士課程修了、文学修士。  
大阪教育大学理事・副学長を経て現職。  
昭和23年生まれ、72歳。

かわせ とおる  
東京書籍株式会社 顧問 川瀬 徹

1981年に東京書籍株式会社に入社。  
主にICT事業に関わり、ICT事業本部 第一営業部 部長、取締役 教育文化局長などを経て現職。一般社団法人日本教育情報化振興会 (JAPET&CEC) の常任理事、公益財団法人学習情報研究センターの理事、日本視聴覚教員連合会の理事としても活動。昭和32年生まれ、63歳。

## Talk.1 Networkingライツに 関する協定の締結と 東京書籍 Edu Studioの 設置について

【栗林】 東京書籍株式会社様には、2020年4月に本学と包括連携協定を締結、続けて9月にNetworkingライツに関する協定を締結し、本学の附属図書館に「東京書籍 Edu Studio」を設置していただきました。このEdu Studioには、自由に利用できる「デジタル教科書体験コーナー」や「教科書ライブラリー」が設置されているわけですが、この取組の理念についてどのように考えていらっしゃるか教えてください。

また、2018年に、紙媒体の教科書に加えてデジタル教科書の併用を認める法改正が行われましたが、この点について、今回のNetworkingライツに関する協定の締結をきっかけに、どのような取組を進めているか、この件についてもお聞かせください。

【川瀬】 法改正の趣旨である学校現場でのデジタル教科書の導入にあたって、文部科学省は2019年12月頃に一人一台端末の構想を打ち出して、2020年に入ってから新型コロナウイルス感染症の流行による学校の閉鎖で、オンラインでの授業が実施できる環境が必要となり、PC等の情報端末や校内LANの整備を進める「GIGAスクール

ル構想」が一気に前倒しされました。

【栗林】 じゃあ、次は何か必要とされるかを考えた時に、我々のデジタル教科書だろうと考えました。そんな折に貴学と包括連携及びNetworkingライツに関する協定を締結しましたので、学生さんが教育実習に行かれた時や教員になった際に困らないようにデジタル教科書に慣れてくれたらと思います。体験できるライセンスと設備を提供したいと考えました。それが「東京書籍 Edu Studio」です。

## Talk.2 児童一人一台 端末が整備された後の 教育及び教員養成の 在り方とは

【栗林】 おっしゃられたように、児童一人一台端末の環境が整った後、次のステップとしてデジタル教科書をどのように活用するのかという話に移ってくださると思います。さらに、それらをどう使って、学習内容をどのように組み立てていったらいいのか、これは教員の課題でもあるかと思えます。それらの課題解決に向けて、今後どのように進んでいくのが望ましいのか。もちろん、国と大学が一体的に進むことは本来のめざすところですが、現実にも、情報端末と校内LANが先に提供されたという中で、教員養成の役割をどう考えればいいのか。それから日本における教科書発行のリーダーシップである東京書籍としては、今後の展開についてどのようにお考えなのか

教えてください。

【川瀬】 ご指摘の点は非常に大きな課題だと、我々も思っています。学習者用デジタル教科書の前には、指導者用のデジタル教科書がありました。この指導者用のデジタル教科書は、先生のコントロール下にありましたので、特に授業での取り扱いが難しくありませんでした。しかし次は、子どもの方の情報端末にデジタル教科書が入ってきます。また、文部科学省も主体的・対話的で深い学びを重視しており、主体的・対話的で深い学びとは、子どもが主体的に学ぶ授業に変わっていくことだと思います。そうすると、先生がいわゆる「教える」というよりも、その子が学んでいくのをうまくサポートすることにより、自主的に学ぶ中で、迷いや疑問が出てきたときに先生がうまく導いてあげる、そういう「ファシリテーター」のような役割になってくるのだらうと思えます。そうならないと、子どもたちが学習を自ら進めていくことができないし、それらの学習形態を認めるように先生方の意識改革も進めていく必要があるかと思えます。

【栗林】 今ご指摘いただいた点は非常に重要で、主体的・対話的で深い学びを実現するために、教員の役割や学習形態の転換期に直面しているのだと思います。デジタル教科書は便利で、しかもその視認性の面から言えば、理解も促進してくれる側面があるかと思えます。そのデジタル教科書を、子どもが考

える力を自ら身につけていくための道具として考えた場合には、どういう特徴があると言えるでしょうか。

【川瀬】 学習者用デジタル教科書になると、子どもが勝手に使い出す可能性もあるので、ある程度親切に作る必要があります。また、知識としては教えたけど、子どもの身についていないと困るので、学習内容を習得するためのドリル演習のようなものも用意しなくてはなりません。そういう点では、学習者用と指導者用のデジタル教科書の作り方も違うし、子どもが深く考え、この問題は、この先どうなるのかと気になったとき、その説明が後から出てくるのか、発展的な教材が出てくれるのか、子どもの要求に対



して応えられるようにする必要はあるかなと思います。

### Talk.3 デジタル社会における教育について

【栗林】

これまでお話しいただいたデジタル教科書を始め、あらゆるICT活用を軸とするデジタル社会の中で、先ほど学習形態が変わっていくという指摘がありました。同様に学習することの意味がこれまでとは違ってくるようなことが言われ始めています。また、その中でどういうことに力点を置き、これからの時代を生きていくのかということも指摘されるようになってきていると思います。教材のデジタル化を専門で扱ってこられた立場から、これからの世の中をどのように見ておられるのか、教えていただけますでしょうか。

【川瀬】

まず、学習というか、授業のスタイルが以前は先生が知識の伝達をして、子どもは知識を習得するという形が多かったと思いますし、大学入試もその延長線上で、それだけの知識があるかを確認する、という形態が大半を占めていました。ところが徐々に知識と知識を結びつけて、関連付けがうまくできるかなど、そういう能力を問われ始めていると思います。分らないことはパソコンを開いて調べれば大抵のことは全部分かりますから、単なる暗記はもう逆にパソコンに任せてしまっ、知識をただ入れるのではなく、課題の解決方法をどうし



たらいいのかとかです。そちらの方に力を入れる必要があると思います。

それから、紙からデジタルにしたメリットは、まだ実現はできていませんが、子どもの考えが紙であれば、それはアナログです。そこから見る必要がありますが、デジタルは自然に蓄積される。今、国の方でも教育データの利活用に関する専門家会議が始まっていますが、デジタルのデータを活用し、子どもによって間違えたり躓いたりする箇所が分かるとするならば、次回その子が躓かないようにするためにどうすればいいかを考えることができる。例えば、小学5年生の算数の「割合」の単元で躓く子どもが多い傾向があります。そこをじゃあどのように教えればいいのか、躓かないようにするためにどうすればいいのか、そういう学習の履歴をどんどん積み上げていくことによつて、先生方が教えるときに、こはちょっと丁寧に教えなきゃいけないとか、教える側の先生にもフィードバックできるのです。

我々は、このデータの利活用が導入されたときに、デジタル教科書に生かして、子どもたちにも先生にもフィードバックしなければいけないと思っています。そのデータを国とか、市町村単位で蓄積して、そのデータをもとに子ども自身が学習の履歴を考察し、躓いた箇所からもう1回見直す、そういうことができるようにするのがデジタルのいいところじゃないかなと思っています。理想はそこですが、もっと言えば、今度はAIによって子どもとの苦手に合わせた問題を出してみたいな未来になってくれるのを私は期待しています。

【栗林】

あらゆる教科や分野における自分自身の学習状況をいつでもチェックできて、足りない箇所をもう一度積み上げることができることは非常に重要な指摘だと思えます。また、その蓄積が自分自身を体系化していくことに繋がると思います。他方、文部科学省において、今まで学校

学も敏感に反応しなくてはいけないし、現場の先生方、教育委員会も反応しなくてはならないし、それをまた国が制度として柔軟に対応できるようにしなくてはいい。そういう時代になっているんじゃないかなと思います。

### Talk.4 デジタル社会において教員になる人材に必要な資質について

【栗林】

今のお話で、本学の学生が今後どのようにデジタル社会に対応していく、そして学校現場で活躍するとき、どのような役割を果たしていけばいいのかということを考えてしまいました。

本学は、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、2020年3月という早い時期に、4月からは当面の間オンラインで授業をするしかないだろうと判断しました。その後、教員全員がオンラインで授業を実施

できる状況ではなかったので、オンラインでの授業形態に馴染んでもらうためにFDを繰り返し実施し、4月20日からオンライン授業を中心に実施してきました。そんな中で、こういう環境の変化に順応するのは、大学教員よりも若者の学生たちの方が早いことが徐々にわかってきました。例えば Moodle や Zoom、Webex、様々なソフトがありますが、このソフトのこの機能を使えばより効率的ですよ、といった提案が学生の方から教員に上がってくる。そういう環境の変化への順応が早い学生たちが、デジタル社会に対応して、より深い学びを自ら演出していきけるような教員となるには、どのような心構えで社会に対応していけるのか。その点について、心構えや基本的な姿勢、あるいは資格、着想などについてご指摘いただけますでしょうか。

【川瀬】

学長の前で教育論を語れるような立場ではないのですけども、一つ言えるのは、全て

教員自身ができなくてはいけない、というわけではなく、情報機器に詳しい必要はないのです。学校現場でもよく見るのですが、先生が「わからない」と言えは、「先生任せ」と言ってくれる子がいて、その子がサポートしてくれる。それでいいんですよ。情報機器を使えなくても別にいいし、その子がいたからその子に手伝わらなくてもいいし、そこで先生の威厳とか気にする必要もない。さらに、その子自身も自分の存在が認められているって思ってくれればいいわけです。

【栗林】

これからの時代には、全ての子どもたちが主体的・対話的で深い学びをめざさないとはいけません。子どもによって進め方も対応力にも差がある、でもそれは別に悪いわけではなく、それぞれの子どもが自分なりに主体的・対話的で深い学びができればいいのだと思います。そのためには、個別最適化された教育というものが、これからますます必要になってくるんだろうと思います。そういう力を身につけていくことが求められていると、学生自身が認識しながら学ばなければいけない、そういう時代が来ているというふうに感じます。

【川瀬】

先日参観させていただいたある授業を見ていても、「分かったよ」とか、「できたよ」と、すごく嬉しそうにしている子がいて、でも中には悔しがっている子もいて、「僕も発表したかった」「私も」と言っているのを見て、授業が完璧に成功しているのがわ

で教えてきた教科・科目の枠にとらわれないような考え方も打ち出しています。今までの教科立ての中でも、違う教科同士を連携して考えることは取り組まれていて、このような見方は今後にも拡大する可能性が大いにあると思います。この点について考えをお聞かせください。

【川瀬】

おっしゃる通りに、教科という枠組みはその子にとってみれば与えられただけのもので、大人が勝手に決めたものです。でも、子どもにしてみれば興味のあることが、これが社会科だとか、これが算数だとかなんて思わないわけです。たまたまそれが社会科の分野で、横に行けば算数になって、また横に行けば家庭科になってもいいわけです。それを「カリキュラムマネジメント」だとか、教科を超えたとはいいますが、そのように大人が作った教科という枠組みをそろそろ超えてもいいと思っています。

また、デジタル化がこれだけ進んでいると、パソコンを使う中で、順序立てて考える、いわゆるプログラミング的思考を使う必要があるということは、やはり社会に出てからも求められる能力になっています。そういった考えを教えることは、数学で教えるもいいですし、別に技術・家庭科とクロスして教えるでもいいと思います。だから、必要なものに合わせて指導要領も変わっていくです。教える方も変えていいんです。その時代の流れの中で、今の子どもたちが10年20年経ったときに必要とされるものを学校で教えてあげなければいけない。それに大

かりました。授業中に当てられたくない子どもは一定数いると思いますが、「僕も答えなかった」「発表したかった」と子どもが言えるような授業を、工夫して実践してもらえればと思います。僕は、ぜひ大阪教育大学の学生さんにそれを期待しますし、そういう授業ができるようにサポートできるのが我々の会社かなと思います。

【栗林】

今後一層、本学との包括連携やネーミングライツに関する協定をもとに、色々な取組を進めていけたらと思っています。本日はどうもありがとうございました。



募集人員(目安): 10名

# 心理・教育支援コース

- 教員養成大学としての強みをいかし、教育領域に強い公認心理師を養成します。
- 「教育領域に強い公認心理師」として心理支援の立場から教育課題を実践的に解決できる人材を養成します。

取得  
できる  
資格

修了後の  
輩出先

主な  
開講科目

特徴

【認定資格】公認心理師(受験資格)  
心理学の専門的知識と技術をもって、心理に関する支援を必要とする人の心理状態の観察と分析、その心理に関する相談、助言、指導その他の援助を行うことなどを業とする専門職です。

【認定資格】臨床発達心理士(※)

臨床発達心理士とは、発達の臨床に携わる幅広い専門家に開かれた資格です。人の発達・成長・加齢に寄り添い、必要とされる援助を提供します。発達心理学をベースにして「発達の観点を持つところが特徴です。」

【認定資格】学校心理士(※)

学校生活におけるさまざまな問題について、アセスメント・コンサルテーション・カウンセリングなどを通して、子ども自身、子どもを取り巻く保護者や教師、学校に対し、「学校心理学」の専門的知識と技能をもって心理的援助サービスを行うことのできる方に対して、一般社団法人学校心理士認定運営機構が認定する資格です。

※公認心理師資格を取得し、所定の講習会を受講することで申請資格が得られます。

- 教員養成大学としての強みを生かしながら、国家資格である公認心理師の受験資格の取得をめざします。
  - 「チーム学校」や教育・学習支援に必要とする知識・技能を身に付け、実践的に支援できる力を育成します。
- ※本学大学院で、所定の43単位を取得し、修了することで受験資格を得ることができます。ただし、大学院に入学する前に4年制大学において法令で定められた科目をすべて履修していることが条件となります。  
条件を満たさずごうかは、ご自身の所属又は卒業大学にご確認ください。

コース代表教員  
からのメッセージ

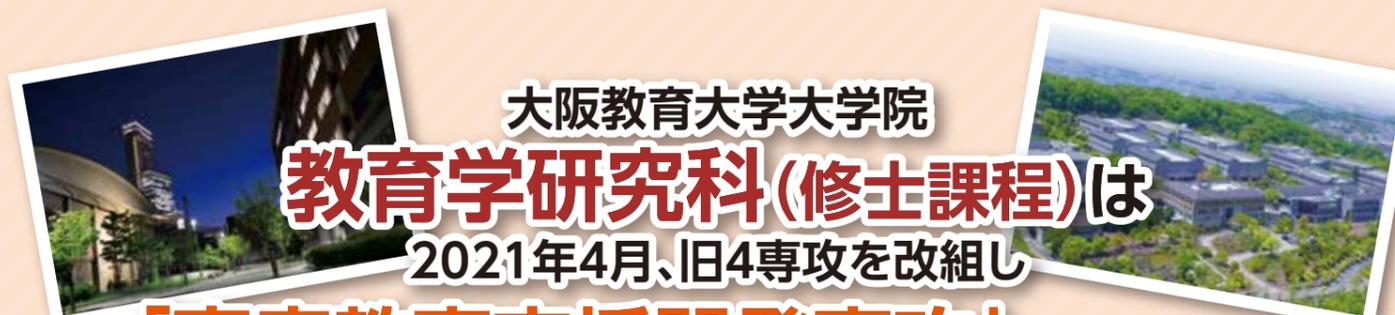


石橋 正浩 教授

2017年の公認心理師法施行をうけ、教員養成だけでなく教員を支援する人材の養成も本学の使命であるとの考えのもと、学部では2019年度入学生から、そして大学院では2021年度入学生から、公認心理師国家資格取得に対応するカリキュラムに着手することとなりました。

学校現場では教員の業務過多に加え、対応する問題も多様かつ深刻なものが増えています。教員、児童生徒、保護者、各種専門職、そして地域社会と連携して問題の解決にあたらうという「チームとしての学校」の考え方は今後ますます重要になります。「チームとしての学校」の一員として、あるいは保健医療や福祉などのさまざまな分野において、心理学の体系的な知識を基盤とした効果的な支援を実践することのできる専門家を養成したいと考えています。

研究と実践の双方に意欲と熱意があり、なおかつ冷静な観察眼や分析力のある方をお待ちしています。新たな歴史を作りましょう。



大阪教育大学大学院

## 教育学研究科(修士課程)は

2021年4月、旧4専攻を改組し

## 「高度教育支援開発専攻」に再編します。

大阪教育大学では、2021年4月に、大学院教育学研究科(修士課程)を、これまでの4専攻(国際文化専攻、総合基礎科学専攻、芸術文化専攻、健康科学専攻)から「高度教育支援開発専攻」の1専攻に再編します。

新たな修士課程である教育学研究科は、全ての院生が教育・学習支援の実践力と課題分析力を身に付けられるよう教育課程を編成し、教員以外の立場から教育現場の課題解決・価値創造の一翼を担う高度な人材を養成します。



専攻	コース	領域	主な修学キャンパス	募集人員(目安)
高度教育支援開発専攻	心理・教育支援コース	—	学部卒学生等 柏原キャンパス (昼間開講)	10名
	国際協働教育コース	日本型教育システム開発領域	留学生等 (及び学部卒学生等) 柏原キャンパス (昼間開講)	20名
		日本語教育支援高度化領域		
	教育ファシリテーションコース	教育イノベーション開発領域	社会人等 (及び学部卒学生等) 天王寺キャンパス (平日夜間・土曜開講)	20名
		地域教育・芸術支援人材高度化領域		
		健康・安全教育高度化領域		

※教員免許状一種免許状を取得している者で、本修士課程を修了しても、専修免許状を取得することはできません。

授業の時間帯は、柏原キャンパス開講コースは1～5時限、天王寺キャンパス開講コースは6～7時限が原則です。(ただし、土曜日開講授業・集中講義についてはこの限りではありません。)

1時限 / 8:50～10:20	2時限 / 10:35～12:05	3時限 / 12:55～14:25	4時限 / 14:40～16:10
5時限 / 16:25～17:55	6時限 / 18:00～19:30	7時限 / 19:40～21:10	

心理・教育支援コース  
柏原キャンパス(昼間開講)

教育領域で従事する心理職や子どもに関する心理の専門家、さらに教育や子どもの発達に関する心理学研究を行いたい学生を対象に、「チーム学校」や教育協働についての理論と実践を学ぶための高度な心理学の教育を行います。  
本コースを修了することで、「公認心理師」の受験資格及び「臨床発達心理士」「学校心理士」の申請資格を得ることができます。

国際協働教育コース  
柏原キャンパス(昼間開講)

留学生を受け入れ、日本の理数系を中心とした教科教育と母国の教育の比較研究、海外展開モデルの発展に資する実践研究や、日本語教育の実践的な教育研究等に取り組めます。

また、日本型教育システムのなかで学んできた学生を受け入れ、留学生との実践的な協働学習を通じて専門的理解を深化させることを狙っています。

教育ファシリテーションコース

天王寺キャンパス(平日夜間・土曜開講)

主に多様な専門的能力を有する社会人を受け入れることにより、学校・家庭・地域の教育への最適化を探究し新時代の学校改革や多様化した教育課題の解決に資するための教育研究を行います。

また、自らの知識・技能、経験を他者の知見と組み合わせて、様々な教育課題の解決に向けた実践知を生み出す能力を養成します。

募集人員(目安): 20名

# 教育ファシリテーションコース

- 主として社会人を受け入れ、自らの知識・技能、経験を他者の知見と組み合わせ、教育現場の最適化に資する実践知を生み出すことができる人材を養成します。
- 「教育イノベーション開発領域」、「地域教育・芸術支援人材高度化領域」及び「健康・安全教育高度化領域」の3領域を設けます。
- 必修科目として、「社会に開かれた教育課程の実践研究」、「学習支援特論」、「プロジェクト演習」を開講します。

**健康・安全教育高度化領域**

学校・家庭・地域の健康・安全の向上を担える人材やスポーツ実践の課題を解決できる人材を養成します。

**特徴**

- 医療や保健、スポーツ、学校安全などの健康・安全分野に関する理論的・実践的探究を通じて、教育課題を解決するための知識・技能を身に付けます。
- 多職種との協働による考察を通じて、健康・安全教育の課題解決に資する授業の企画や運営手法、教材開発手法など実務的な技能を身に付けます。
- 児童生徒にスポーツの楽しさ、健康・安全な生活を気づかせ、豊かな人間性・社会性を育むことができる人材を養成します。

**主な開講科目**

- 地域・学校における教育の理論と方法
- 課題解決のための実践研究

**修了後の輩出先**

看護師、理学療法士、保健師、管理栄養士など医療・保健、健康関係の専門職や、アスリート、スポーツ指導者など、専門的知識・技能、経験を生かして、教育現場の高度化に貢献する人材。

**地域教育・芸術支援人材高度化領域**

学校や地域の教育課題の解決に寄与する人材や、音楽や美術の技術や感性を教育分野に生かすことができる人材を養成します。

**特徴**

- 地域学校協働や学習支援に関する理論的・実践的探究を通じて、学校や地域の教育課題を解決するための知識・技能を身に付けます。
- 芸術表現に関する専門性を生かして、教材開発能力や事業企画力など教育現場に参画するための知識・技能を身に付けます。

**主な開講科目**

- 地域教育とキャリア形成
- 地域教育実践演習
- 地域教育支援研究

**修了後の輩出先**

社会教育関係者、社会福祉士、民間教育事業者、芸術家、演奏家、教育や文化振興に関する団体の職員など、専門的知識・技能、経験を生かして、教育現場の高度化に貢献する人材。

**教育イノベーション開発領域**

AI・ICT等先端技術を活用し、教育課題を解決に導くことのできる人材を養成します。

**特徴**

- 今日的な教育現場の動向やニーズを理解し、自らが有する知識・技能、経験と異分野の知見の組み合わせによる協働的・実践的な学びを展開します。
- 先端技術を自在に駆使し、教育に関するデータを集積・分析しながら、各種教育課題に対して最適な解決策を提示するための知識・技能を身に付けます。

**主な開講科目**

- 教育ポートフォリオとデータ
- 人工知能概論
- 先端技術の教育展開と教育データ分析演習

**修了後の輩出先**

先端技術分野の企業、教育委員会行政職など、専門的知識・技能、経験を生かして、教育現場の高度化に貢献する人材。

コース代表教員からのメッセージ



出相 泰裕 教授

「多様性がキーワードとなっている今日、まさに教育ファシリテーションコースは、様々な専門性・実務経験を持った人材が集まり、それぞれの専門性を結び合わせる、あるいは融合させる場となります。様々な専門性を持った方々が、各領域で専門性を高めながら、そこに教育学がプラスされ、それが付加価値となり、専門分野に関わる様々な問題の解決に教育的アプローチを用いて寄与する人材を育成します。

また、経験は大きな学習資源です。本コースは自分の経験についてじっくりと他者と共に考察し、自分及び他者の経験から共に学ぶ場ともなります。

社会に出た後に再び学校で学ぶということがより盛んになっていく、そんな時代の先駆者になりませんか？新しい生き方を作りだしていきましょう。修了時には、もはや以前のあなたではなくなっていると思います。

学部からそのまま本コースに進学した学生にとっても、実務経験を持つ方々の学びは刺激的で、通常の大学院とは違った価値を感じることでしょう。

募集人員(目安): 20名

# 国際協働教育コース

- 主として留学生を受け入れ、国境や異文化間を越えてグローバルなフィールドで他者と協働しながら活躍できる教育・学習支援人材を養成します。
- 「日本型教育システム開発領域」と「日本語教育支援高度化領域」の2領域を設けます。
- コース共通科目として、「国際関係論」、「国際比較文化論」等を開講します。

**日本語教育支援高度化領域**

国内外の日本語教育に必要な専門的知識と実践的教育力を養成します。

**特徴**

- 外国語として日本語を教えるために必要な日本語・日本文化に対する専門的知識と実践的な教育方法を学びます。
- 母語・母文化と日本語・日本文化を比較し分析できる力を身に付け、国内外の日本語教育の現場に対応可能な実践力を育成します。
- 日本語を教える高度なスキル、教育方法や教材開発力を身に付けます。

**主な開講科目**

- 日本語教育の理論と実践
- 社会言語学特論
- 日本語構造論
- 日本語教育支援実践演習

**修了後の輩出先**

日本語教育機関、日本語教師養成機関、教育に関わる国際教育機関、教育行政機関・学校現場、日本語教育教材に関わる企業など

**日本語教育支援高度化領域**

国内外の日本語教育に必要な専門的知識と実践的教育力を養成します。

**特徴**

- 日本型教育と各国・地域の教育を比較して、新たな教育モデルを創造し実践できる資質・能力を育成します。
- 理系科目を中心とした高度な教育スキルを身に付けます。
- 日本型教育システムを国際的な視野から深く理解する力を身に付けます。

**主な開講科目**

- 日本型教育システムにおけるICT活用方法
- 日本型教育システムの諸相
- 日本型教育システム開発実践演習

**修了後の輩出先**

教育に関する国際機関、教育行政機関、日本への留学をめざす児童生徒を育てる教育機関、外国にルーツのある児童生徒が在籍する教育機関、理系の教材に関わる企業など

コース代表教員からのメッセージ



石橋 紀俊 教授

様々なルーツをもち価値観を異にする人々が、国や地域の隔たりを越えてボーダレスに協働する。そのことを通して、すべての人が尊重され、努力したことが平等に報われる社会の実現のために、教育が重要であることは言うまでもありません。また、AIなどのテクノロジーの劇的な進化を伴いながら到来する未来の社会のなかで、私たち一人ひとりが人間らしく生きるために必要であるのも教育です。

国際協働教育コースは、理系教育と日本語教育という分野から、来るべき未来にアプローチしようとするコースです。このコースでは、日本型教育システム以外で日本語を外国語として学んだ留学生と、日本型教育システムで学び日本語を母語とする学部卒の院生とが協働して学びます。その学びを通じて、ルーツや価値観が異なるからこそ相互に理解を深め、互いに尊重することのできる寛容で柔軟な思考力と、今後ますますグローバル化する国際社会で活躍しうる実践力を身に付けます。

# コロナ禍における課外活動

コロナ禍においても、新型コロナウイルス感染症への対策を講じながら活動を続ける課外活動団体に、実施している対策やコロナ禍での活動内容について聞いてみました。

①主なコロナ対策 ②コロナ禍での活動

@柏原キャンパス

## 陸上競技部 GoogleFormを活用した 体調管理と選手へのヒアリング

主務・中谷エイ氣さん / 理数情報専攻数理情報コース3回生

- 1 コロナ禍以前から部員のコンディション把握の一環で取り組んでいたアンケートフォームを発展させ、GoogleFormを使って全部員の体調管理を行っています。項目に引っかかっていたり、不調である旨が入力されていると管理画面でわかるようになっていたので、該当する選手に対してヒアリングを行うようにしています。他にも、ウォームアップ時の間隔や共用物品の消毒にも気を付けています。
- 2 練習等もかなりの制限がある中で、予選を勝ち抜き、第1回大学対校男女混合駅伝への出場権を獲得しました。



所属人数 79人(2020年12月時点)  
活動日 毎週月～水・金・土曜日



## 女子ラクロス部 プレー中でも マウスシールドを着用

主将・脇坂香絵さん / 小中教育専攻理科教育コース3回生

- 1 ラクロスでは選手同士がぶつかるプレーも多いので、プレー中でも透明のマウスシールドを着用しています。毎日の健康記録も、練習の際に用意するボードに書き込み、全員の体調を視覚化しています。また、共用物品は毎練習後に当番制で消毒を行っています。課外活動禁止期間中も、Zoomでグループに分かれて家でできるトレーニングを行っていました。
- 2 10月から12月の間に行われた関西一部リーグ戦に出場し、全4試合行いました。



所属人数 16人(2020年12月時点)  
活動日 毎週日・火～木・土曜日



## 混声合唱団 屋外でも10m空けて合唱練習

幹事長・横島勇司さん / 中等教育専攻社会科教育コース3回生

- 1 課外活動実施指針では屋内による発声は1人までと決められているので、屋外で、かつ前後左右の人の間隔を10m空けて合唱の練習をしています。最初は他の人の声が遅れて聞こえてきたり、ピアノの伴奏が聞こえなかったり、色々な問題が発生しましたが、試行錯誤の末、順応することができました。
- 2 柏原市内の多目的ホールを借り、無観客による定期演奏会を行い、その様子をYouTube上でライブ配信しました。その後、編集したのもも一定期間公開していました。



所属人数 33人(2020年12月時点)  
活動日 毎週月・土曜日



@天王寺キャンパス

## ソフトボールサークル Phoenix 共有物品の取扱 及び消毒の徹底

代表・山口ななさん / 小学校教育専攻夜間5年コース3回生

- 1 バットやベンチなどの共用物品は、使用前後に必ず消毒しています。さらに、バットを使用する際は、素手で触らないように両手にバッティンググローブを着用するか、持っていない人には軍手を貸し出して練習しています。また、マスクはプレー中でも外さないようにし、プレー外ではハイタッチ等の接触もしないように意識しています。
- 2 夜間コースでは普段、授業終わりの夜の9時過ぎから練習をしていますが、2021年1月からの緊急事態宣言下では、夜の8時以降の活動は制限されているので、土曜日の夕方から日曜日の昼間での活動に限定しています。



所属人数 50人(2020年12月時点)  
活動日 毎週水・土曜日(平常時)

本学では新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、一部期間を除いて2020年2月から課外活動を一部制限し、4月から6月においては活動を禁止していました。その後、6月末に「課外活動実施指針」を策定し、各団体から同指針に則った活動指針を提出させ、本学保健センターと相談のうえ許可された団体のみが活動できる体制を取っています。

## 大教大史上初 オンライン 神霜祭

～神霜月間までの道のり～

毎年11月初旬に柏原キャンパスで体育文化週間行事として3日間にわたって開催している大学祭、通称「神霜祭」。2020年度は、新型コロナウイルス感染症の情勢を鑑み、現地開催中止となった。しかしその状況を逆手に取り、11月23日から12月20日までの約1か月間を「神霜月間」と称し、オンラインならではの長期間の神霜祭を開催した。本学史上初のオンライン神霜祭を開催した「大学祭準備会」委員長の小田村美湖(おだむらみこ)さんにお話を伺いました。



委員長にインタビュー

小田村 美湖

大学祭準備会・委員長  
学校教育教員養成課程  
小中教育専攻  
社会科教育コース 2回生



大学祭準備会  
公式Twitter



いつからオンライン神霜祭を構想していましたか？  
6月当初は年度初めの新歓行事が中止になったため、対面での神霜祭をどう形態を変えて実施しようか考えていました。しかし、8月に入っても改善しないコロナ情勢に直面し、対面開催は到底叶わないことが実行委員会(以下「実委」)内での共通認識となりました。オンライン開催に対して実委内の反応は？  
オンライン開催ならではの長期間開催だからこそできる企画を実施して、コロナ禍の学生生活に彩りを添えることをコンセプトとした「神霜月間」としてはどうか、との意見が出てきましたが、提案当初は、実委内の賛否は半々でした。

どのようにして実委内の合意形成を図ったのでしょうか？

実委内の意見がまとまらない限りは前に進めないと考えた私は、実委を4つの縦割り班に分けて、オンライン開催だからこそできる企画をそれぞれ考え、企画内容を班ごとにアピールするプレゼン大会を実施しました。そこで、他班のプレゼンを見て、オンライン開催の可否を決定する評価シートによる投票を行いました。その後、プレゼンで提案された企画を昇華させる方向に舵を切りました。

委員長として心がけたことは？

神霜祭を開催しない年があると、次年度に金銭的・認知的な支障が生じると考え、何としても開催しなくては思っていました。しかし、どうすれば神霜祭をオンラインで開催したいと実委全体で団結できるか、という点については本場に苦労しました。例年とどおりに甘んじてはいけなく、というのが私の信条なのですが、あまりにも例年とどおりじゃなすぎました。それでも私は、神霜月間が、コロナ禍で沈み切った大学に新風を巻き起こすためのきっかけになればと考えていました。実委はそれができる団体だと信じていました。

オンライン神霜祭の開催にあたって心がけたことは？  
対面開催よりも多くの企画を用意し、可能な限り多くの大教生と「つながる」ことを最終目標にしました。そのために、大教生全員に認知してもらえよう、大学の一斉送信メールによりLINE@に誘導し、実委の情報を漏れなく受け取れるようにしました。  
一方で、部やサークル団体の成果発表の場としての側面も大切にしました。例年であれば神霜祭を引退ステージにしている団体も多く、他の手立てとなるライブ等も実施できない状況でした。なおかつ、新入生の勧誘も難航し、存続が危うい団体も多くありましたので、新入生の課外活動への進出のきっかけとすることも、念頭に置いていました。

大学祭準備会の今後の活動や展望を聞かせてください

開催後のアンケートでは「オンライン」という形だったが、神霜祭を開催してくれたこと自体に意義があったとの意見を多くいただきました。しかし、「周知度や企画の濃密度の面では課題があった」との声も少なからずありました。私の中での「成功」の判断基準は「前年の感動を凌駕するようなイベントが開催できたかどうか」です。そのため、アンケートでいただいた意見も参考に、すでにオンライン開催を決めている2021年度の実委主催のイベントを「成功」できるような実委一丸となって向かっていくだけかなと思っています。

また、今までは実委の人数が少なく、神霜祭自体の運営に手一杯でしたが、この2年間で実委の人数も増え、実委独自の企画を増やしたいと考えていました。そんな中、「このコロナ禍という逆境にもかかわらず、オンライン神霜祭で「大教王」という新しい企画が成立できたことは、神霜祭をより高みに進化させる布石になったと思っています。今までは、実委企画が少ないことが、他大学の大学祭と比較して負けている点だと自覚していたので、このコロナ禍をバネにして、大人数になった実委だからこそできることに挑戦していきたいと思っています。

## 神霜月間に 開催された企画

成果発表

新歓・引退ライブを兼ねた部・サークルの紹介動画を集約し、YouTubeで公開。活動紹介27本・パフォーマンス動画11本・動画以外のコンテンツ7団体分の計36団体が参加。



自粛飯

コロナ禍のステイホーム中に学生自らで作った料理をSNS上で募集。計7件の応募があり、特設ウェブサイトで紹介。

ゆるキャラ  
グランプリ



今後の大学祭のパンフ・ポスター等に使用する大学祭用のゆるキャラをSNS上で募集。計7件の応募があり、Twitter上で投票の結果「人に真っ直ぐノ助」がグランプリに。



大教王

有志20人のオンライン予選を勝ち抜いた8人で行われた対面式のクイズ大会。その様子を撮影・編集したものをYouTubeで公開。動画は期間中に約200回再生された。



アスリート視点の動画が見られます。

# Athlete's View

体などに装着し、臨場感あふれる映像を記録できるカメラを使って、アスリート視点の動画を撮影しました。

大阪教育大学 体育会



## FIGURE SKATING

# 水口 愛菜

みずぐち あいな

教育協働学科 健康安全科学専攻 3回生  
フィギュアスケート部主将  
日本学生氷上競技選手権大会フィギュア大会6位(3級女子)

### 氷上で輝く 一人ひとりの個性

小学3年生のときにTVで浅田真央選手の演技を見て「やってみたい」と思い、フィギュアスケートを始めました。中学校・高校ではスケートから離れていましたが、大学にフィギュアスケート部があれば再びチャレンジしようと決めて大学受験に臨みました。

大学では、滑る曲やその編曲、振り付けも自分やスケートを通してできた友人と相談して決めて、さらには衣装も自分で作ることがあります。だからこそ、一人ひとりの個性が氷上で輝いて、本当に自分のやりたいことを広いリンクの上で皆さんに見て頂ける、それがフィギュアスケートの魅力だと思います。

演技のときは、特に笑顔でいるように心掛けています。自信がないときも笑顔でいると、「大丈夫」って自然と前向きな気持ちになることができますし、見てくれる方々にもフィギュアスケートの楽しさが伝わるんじゃないかと思っています。

今後は、以前のインカレよりも上位の成績をめざすことはもちろんのこと、今は1回1回の練習や大会を大切にしながら、フィギュアスケート部の存在やその楽しさを多くの方々に伝えていけたらいいなと思います。

#### DATA : フィギュアスケート部

部員数：2人(2020年5月現在) 創部年：1981年  
戦績：日本学生氷上競技選手権大会  
フィギュア大会2位(4級女子)  
関西学生フィギュアスケート競技大会優勝(4級女子)  
西日本学生フィギュアスケート選手権大会3位(3級女子)



# 村瀬 悠介

むらせ ゆうすけ

教育協働学科 スポーツ科学専攻 4回生  
男子サッカー部主将  
ポジション:ディフェンダー

### 努力をやめず 目標までぶっちぎる

サッカーを始めたのは5歳、家族と出かけた際に地域のジュニアサッカーチームの練習を見かけたことがきっかけでした。点を獲って試合に勝つ瞬間、チームの皆で喜ぶ瞬間が最高で、「サッカーをやっていて良かったな」って実感する瞬間です。

今年は新型コロナウイルス感染症の影響で思ったように練習ができず、主将としてもわからないことばかりでしたが、チームメイトに支えられながら、今年度の関西学生サッカーリーグの2部Aリーグを勝ち抜き1部リーグに昇格できました。後輩たちには今後、強いチームと戦うことができる1部リーグという環境を無駄にせず、部のスローガンの1つである「ぶっちぎれ大教」の言葉どおり、全日本インカレ出場をめざしてぶっちぎりで勝ち進んでほしいです。

卒業後は、J2の「FC琉球」というプロサッカークラブチームに加入し、これまでと違うレベルに挑戦することになります。自らの長所を生かしながら、J1昇格をめざして努力し続けたいと思います。

#### DATA : 男子サッカー部

部員数：64人(2020年12月現在)  
創部年：1916年  
戦績：2020年度の関西学生サッカー2部  
Aリーグで準優勝、1部リーグへ昇格。





## 附属天小の児童が自由研究・作品コンクール 3年連続4度目の最優秀賞

私たちの暮らしとつながりが深い海と魚について考える第39回「海とさかな」自由研究・作品コンクール(朝日新聞社、朝日学生新聞社主催、日本水産協賛)において、附属天王寺小学校5年生の佐々木琳史(ささき りんと)さんが、最優秀賞の1つである朝日学生新聞社賞を受賞しました。

佐々木さんは、幼稚園の時に水族館で「ちんあなご」を初めて見て以来、その可愛さに魅了されたそうです。また、「ちんあなご」は、砂の中にもぐるために、へびのような形をしていることを知り、魚に興味を持ったそうです。それ以来、母親に買ってもらった図鑑を見て、いろいろな魚について調べてきました。本コンクールには1年生の時から、毎年応募しています。

今年は昨年に引き続き、「創作部門」に応募し、「海の生きのこり大作戦」という絵本を作りました。佐々木さんは、図工も読書も大好きなので、絵本作りの挑戦は、今年で3度目になるそうです。

今年度受賞した絵本は、登場する海の生き物は、すべてモールで作成し、海のような背景をつなげて表現しました。形や色にこだわり、細かく作るために、モールや毛糸を1本ずつ貼る作業には、多くの時間がかかりました。遠近感を出すために、魚や背景の大きさや重なりを工夫したり、臨場感を出すために、泳いでいる魚の大きさや向きを工夫するなど、「本物の海のような」を表すことにこだわった自作です。

佐々木さんは「僕の将来の夢は、[しんかい6500]に乗って、海の底を調査する科学者になることです。もちろん、来年のコンクールにも応募する予定ですが、その構想については、まだ秘密です」と答えてくれました。



## 附属平小が大学教員と「未来をそうぞう」する特別授業を実施

附属平野小学校の教科「未来そうぞう科」の授業で、5・6年生を対象に、大学教員が出前授業を行いました。

「未来そうぞう科」は文部科学省の研究開発学校制度の研究の中で同校独自で設立した教科で、どんな状況においても、希望に満ち溢れた未来を「想像」し、そのような未来の「創造」に向けて、探究的にアプローチできる人間を育成するため、主体的・協働的・そうぞう的実践力を養うことをねらいとしています。

大学が示した21の授業群から児童たちが選んだ授業は4つ。英語教育部門の箱崎雄子教授の「英語で国際交流してみよう」、数学教育部門の上出吉則特任教授の「トレインシミュレーターでGO!」、美術・書道教育部門の青木宏子特任教授の「木のおもちゃ」と「いろいろ見たくなるルーベ」のおはなし、初等教育部門の渡邊創太講師の「記憶について」です。大学教員は自らの研究を小学生向けにわかりやすく紹介したり、大学の授業を小学生向けにアレンジするなどして、よりよい「未来をそうぞう」することができるように、趣向を凝らした授業を行いました。

授業を受けた児童は「私は「木のおもちゃ」と「記憶」について語る授業を受けました。とても面白くて、2つの授業の共通点は、「視点を変える」でした。この授業で学んだことをこれからの生活に活かしていきたいです」「大学の先生の授業は、いつもとは一味がちがう、ものすごくおもしろかったです。専門的な内容がわかりやすく理解できました。まだ受けられていない授業がたくさんあるので、また他の授業を受けたいです」と感想を述べました。

この授業の様子を撮影した動画は、OKUChannelで公開しています



(英語)：箱崎教授「英語で国際交流してみよう」



(算数)：上出特任教授「トレインシミュレーターでGO!」



(図工)：青木特任教授「木のおもちゃ」と「いろいろ見たくなるルーベ」のおはなし



(記憶)：渡邊講師「記憶について」

## 教職大学院と附属学校園によるNew Normalでの授業実践へのサポート 01



教職大学院と附属学校園が協力し、オンラインによる授業配信やICTを活用した教材作成などの実践事例を集約・発信することで、全国の学校現場におけるNew Normalでの授業実践をサポートする取組を始動しました。

この取組では、教職大学院の実務教員が管理職を務める附属学校や、教職大学院の在学生・修了生から、授業動画、ICTを活用した教材、実践事例等を集約し、教職大学院のウェブページにて、広く社会に発信しています。

授業動画等を配信するだけでなく、教材の作成の仕方や、ICT活用のポイント、動画作成時の注意点などの解説を加えていることが、本取組の大きな特色です。これにより、学校教員が、自身の授業に取り入れ、授業動画の作成等の参考・きっかけになることをねらいとしています。

令和3年2月現在、附属小学校からは13件、附属中学校からは10件の授業動画の他、リモートによる生徒総会、海外の生徒への学校紹介などの動画を公開しています。さらに、教職大学院の在学生・修了生からは、オンライン学習支援の実践記録(中学校・社会)、スケッチ動画とその動画の編集方法(中学校・理科)、ICTを活用した授業見学についての実践報告などを公開しています。これらの実践事例の集約・発信は、令和2年度だけでなく、令和3年度以降も継続して、附属学校園・在学生・修了生に働きかけ、動画・教材等を追加していく予定です。



## 「オンライン実験授業」教材開発の発表会を実施 02

理数情報部門の鈴木剛教授が担当する授業で理数情報専攻自然科学コースの2回生後期開講の専門科目「サイエンス実験教材開発」の課題発表会を、オンライン形式で開催しました。

この授業での「オンライン実験授業の可能性を模索する取組は、コロナ禍で中学校・高校等の教育現場の授業がオンライン化するなか、オンライン実験を推進できる人材育成につなげることを目的の一つとしています。

授業は、後期から開始され、20名の受講生が8つの班に分かれて、感染防止対策を実施しながら、対面で遺伝子実験の基礎を学んできました。その上で、各班は、自らテーマを決めた「電気泳動」「制限酵素処理」「PCR」に関連した実験教材開発を行いました。

当日は、オンラインで理数系実験を教えることの難しさ・課題などを議論・理解した上で、動画やパワーポイントを使い、オリジナルな工夫を施して開発した教材を発表しました。発表会を終えた受講生からは「オンライン教材をどのようにしたらうまく伝えることができるかを一つ一つ具体的に示すことで、実験の二つの説明に工夫が感じられた」「オンライン実験の可能性について考えることができた」との感想が寄せられました。担当した鈴木教授は、「オンライン教材として動画を活用する技術や利点を能動的に学んだ学生たちが、将来その経験を教育現場などで生かしていくことを期待しています」と感想を述べました。



## 幼児教育専攻の学生らが公立幼稚園で音楽劇を披露 03

初等教育教員養成課程幼児教育専攻の学生らが、大阪府内の2か所の公立幼稚園で音楽劇を披露しました。

この取組は、初等教育部門の加藤あや子准教授が担当する「表現指導基礎演習」という授業及びゼミ活動の一環で、例年12月頃に幼稚園で音楽劇及び幼児のためのクラシックコンサートを披露しています。

柏原市立幼稚園では、授業を受講している2回生の学生らが、自分たちで「から制作した物語、楽曲、合奏譜をもとに音楽劇を披露しました。

大阪市立幼稚園では、ゼミに所属する3回生の学生らとサポート役として同ゼミの4回生の学生らが、幼児でも楽しめるクラシックというコンセプトのもと、子どもが飽きないような物語の中に、音楽やリズム遊びをちりばめた演奏を行いました。

参加した学生からは、「今回は自分たちで感染症対策を考え、直接子どもたちと触れ合ったり歌ったりせずとも楽しめるような台本作りを心がけました。半年間の準備や練習は本当に大変でしたが、終わった後は達成感を感じることができました」「コロナ禍で大変な時期でしたが、このようにすれば幼児に音楽の楽しさを伝えることができるかを考え、とてもいい経験と勉強になりました」との感想が寄せられました。



## 大阪教育大学と東京書籍とのネーミングライツに関する協定記念セミナーを開催 04

本学と東京書籍株式会社がネーミングライツ・パートナーとなったことを記念して、本学と東京書籍株式会社の共催により、教育委員会や学校関係者の情報交流を目的とした「大阪教育大学と東京書籍とのネーミングライツに関する協定記念セミナー」を開催しました。

本セミナーは、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、会場参加とオンライン参加を併用して開催しました。会場では29名の参加があり、オンラインでは約80名の参加がありました。

第一部では、「GIGAスクール構想の現状」をテーマとして、文部科学省初等中等教育局情報教育・外国語教育課情報教育振興室の水間玲室長、大阪市教育委員会事務局総務部総務課ICT推進グループの長畑卓志首席指導主事、茨木市教育委員会事務局学校教育課教育センターの新川正知所長及び岡田祥一所長代理の4名による講演・発表を行い、GIGAスクール構想の現状と、各教育委員会での導入事例とその課題について共有しました。

第二部では、「SDGs教育の現状と課題」をテーマとして、本学地域連携・教育推進センター副センター長の佐久間敦史准教授、池田市立ほろが丘学園の大坪泰子指導教諭、大東市立北条小学校の北井大器教諭の3名による講演・発表を行い、SDGs教育の現状と、人権教育をはじめとした教育現場での実践事例について共有しました。





表紙作品:「連なる山とよろこび」

アクリル絵具、オイルパステル、色鉛筆/キャンバス 500mm×652mm 2021年

作者:井上七海 教育協働学科芸術表現専攻美術表現コース4回生(2017年入学)

天遊 特別号 (vol.53) 2021年3月発行

企画・編集・発行/  
国立大学法人大阪教育大学広報室  
〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1  
TEL.072-978-3344 FAX.072-978-3225  
E-mail kouhou@bur.osaka-kyoiku.ac.jp  
<https://osaka-kyoiku.ac.jp>

